

紙人形春の囁き (1926)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1926/02/28

【解説】

溝口健二の最初期の名作といわれるサイレント作品。プリントもネガも残っていないとされており、今では見ることをできない溝口作品の一つ。田中栄三が原作・脚本を担当した。

両国の糸屋の娘・お種は、近所に住む象牙細工屋の息子・純夫と恋仲になっていた。二人は年末に出かけた蕎麦屋二階の座敷で結ばれる。やがて純夫はパリ留学に出かけるが、その間にお種は、自分が純夫の子供を身ごもっていることに気づいていた。占い師に相談したところ二人の結婚は「大凶」と出るが、お種は帰国した純夫と結婚。しかしその後、お種の父・半兵衛が急死し、純夫の実家の象牙屋が倒産してしまう。お種は子供を出産するが、今度は純夫が病気にかかり命を落としてしまうのだった。

【クレジット】

監督 溝口健二

原作 田中栄三

脚色 田中栄三

撮影 横田達之

編集 溝口健二

出演	山本嘉一	池田半兵衛
	島耕二	長男・銀之助
	梅村蓉子	妹・お種
	市川春衛	乳母・中村お霜
	岡田時彦	象牙商の息子・貝島純夫
	宮部静子	女給・藤倉愛子
	妹尾松子	柳橋芸者・松相模の小芳
	笹谷源三郎	糸屋の老番頭・渡辺善兵衛
	坂東三江紫	愛子の母・藤倉お辰
	根岸東一郎	相撲取